

## ★ハイテクビデオコンクール受賞

国立天文台ビデオ第3巻「宇宙の果てに挑む」が第11回ハイテクビデオコンクール2000年度奨励賞を受賞しました。二百数十点の応募作品の中からの受賞でした。平成13年4月20日に、機械産業記念事業財團TEPIAホールにて受賞式があり、賞状と副賞のボヘミアカットグラスが企画者国立天文台と製作者株式会社リブラに授与されたのでご報告致します。

この作品は、ガリレオ以来の人類の宇宙観の発展を紹介し、日本の天文学者がすばる望遠鏡に寄せる期待と意気込みを描いたものです。前半では20世紀初頭の銀河宇宙に関するシャブレーとカーチスの大論争、エド温インハップルの膨脹宇宙の発見、ピッグバン宇宙論の確立などの経緯を分かりやすく紹介します。後半は日本の天文学界が、岡山天体物理観測所や木曾観測所の建設から、ハワイ観測所のすばる望遠鏡建設に至った経緯の紹介と、すばる望遠鏡と観測装置の建設に携わる国立天文台職員のインタビューから構成されています。

ビデオは、400年前に初めて望遠鏡を宇宙に向かたガリレイ・ガリレイ(ハワイ観測所職員ブライアン・エルムス)が自作の望遠鏡を手にすばる望遠鏡を訪ねる場面から始まります。ラ

ストシーンの撮影はすばる望遠鏡のファーストライト直後の1999年1月、雪の残る夕暮れの山頂で、冷たい風の吹く中皆凍えながらも、監督やカメラマンの納得の行くまで撮影が繰り返されました。王鷹の旧図書庫を舞台にしたシャブレー(外国人客員教授ウラダス・パンセビシウス)とカーチス(外国人客員教授ウラジミール・コルチャーギン)の迫力ある熱演や、皆さん顔なじみの職員の個性あふれるインタビューも受賞に大きく貢献したものと思われます。

個人的感想になりますが、企画案からシナリオ作成、ロケ撮影、芦優によるアテレコ、オリジナル曲の音入れなど、ビデオづくりの一部始終に立ち会う機会を得、映画づくりの醍醐味を体験させて頂きました。特に芦質や口調を自在に変えられる芦優さんの技や、素編集ビデオを見てイメージに合ったオリジナル曲をシンセサイザーで当てて行く作曲家のプロの技には、本当にびっくりしました。

なお、このビデオは英語版も製作し、ハワイ観測所等では、地元講演などに利用していただいている。日本語版は天文学振興財團から2950円で販売されています。貸し出し用もありますので、まだ見ていない人は是非一度ご覧下さい。お勧めです。

(天文台ビデオ委員会 家 正則)

## エッセー

### ☆ありがとうすばる望遠鏡、そしてBIG ISLAND－

前国立天文台ハワイ観測所 事務長 有井 博文  
(現木更津工業高等専門学校 会計課長)



1999年9月16日すばる望遠鏡の完成記念式典前夜、紀宮清子内親王殿下の観望会にお供し、すばる望遠鏡で直に、この目で何億光年も先の宇宙を眺めた、その時の感動は、今もって鮮明に蘇る。マウナケア山頂で眺める星々の多さと鮮明さ、まさにマウナケアがすばる望遠鏡を待ち望んでいたがごときであった。野辺山の反対側である山梨の増富ラジューム温泉の近くで生まれ育った幼い頃、月明かりと天の川の明かりで稻刈りを夜遅くまでしたのが懐かしく思い出された。2年4月という短いハワイでの勤務であったが、本当にありがとうすばる望

遠鏡そしてBIGISLANDよー、夢を、希望を、そして感動をありがとう！貴方の使命は、最先端の技術の推移を駆使して完成したものであるから、必ずや世界に誇れる研究成果を出し、日本国民にもっともっと夢と希望を与えてくれるものと信じています。

1998年12月14日、妻とともに成田空港を2人の子供と義父に見送られ、夜半近く出発した。僅かな期待と大きな不安をジャンボ機に乗せ、一路ホノルル経由でハワイ島に向かった。

人生のいたずらか？褒美か？23年前に新婚旅行で訪れたハワイ島に、まさか勤務出来ると